５ 卒業研究　各所感

安達　林太郎

今回初めてリーダーという立場で卒業研究を行ったが、自分の非力さ故になかなか作業が上手に進まなかった。班員に指示をして役割を与えることがリーダーの役割であることをこの卒業研究で学ぶことが出来た。

　Javaのシステム構築に関して構文を把握してなく苦労はしたが、データ変数のやり取りや流れを確認することに少しでも楽しみを感じることが出来てよかったと思う。

翠田　葵

　大きく感じた事として「計画は完璧にはできない」ということ。

　初めに抜けの無いようにレイアウトや構築を考えていたはずなのにもかかわらず、後々大きく足りない部分を見つけることも多々ありました、何度も繰り返し考えることが力になると感じた。

青山　直樹

　卒業研究が開始して初めのほうは、欠席が多く班員に迷惑をかけてしまった。

　初めてグループでのシステム開発を行ったが、授業を休んでいた分の付けが回り、プログラム作成の進行がだいぶ遅れてしまった。

　この経験を生かして、社会に出てもついていけるスキルを付けていこうと思った。

田中　宏昌

目標を高く設定しすぎる事の大変さ、いかに早く完成形に近いものを見せられるかが大切なのがわかりました。

　理想はあっても開発している間に現実的なものへと変わっていき

システム開発の大変さがわかりました。

村上　出海

　今回の卒業研究では「実際に手を付けないと見えない部分がある」ということを感じました。

　それまでの話し合いや条件定義で問題がなさそうに見えていませんでしたが、いざプログラムに手を付けると必要なものが足りていなかった、逆に不必要な部分などが浮き彫りになってきました。

　この経験を生かして、今後はこのようなミスを減らしていきたいと思います。